



⑦旧曾我織物

交流館からこちらの建物まで、明治、大正の建物が隣立しています。桐生のまちは大火が多く、北風で北側から焙られ燃えてしまうので、北側だけに耐火壁が造られています。漆喰や煉瓦の壁を設けて、火が入らないように工夫しています。奥行きが40軒もあるのでそれが見られる場所です。



⑧無鄰館

明治から大正時代の建物で国の登録有形文化財。元々は織物工場で、名残として一番手前のこぎり屋根があります。桐生市にはのこぎり屋根工場が現在207棟あり、安定した間接光を取る為に屋根の短い所が北西側を向きますが、ここだけは真東を向いている特殊なのこぎり屋根です。中が広いので、区切って作家さんを入れ、アトリエとして使っています。

奥行きまで1軒の家で持っているところは少なくなってきました。大切な建物群です。有鄰館に敬意を表して無鄰館とつけたそうです。

本町通りに面して建物が連なりますが、塀が掛けられているのはこしか見られません。

⑨平田邸

大正3年に建築された建物で、表にお店、店蔵があり、後ろに母屋、蔵がある典型的な桐生新町の商家の屋敷構えが残っている国の登録有形文化財です。



⑩森合資会社

大正3年、国内ではまだ流行する前に白磁タイルでこの建物を造っています。

今も奥行きまで、当時建てられた大部分が残っています。



⑪一の湯

昭和8年、この奥に凄く大きいのがこぎり屋根の林織物工場があり、大きなお風呂があったのですが、それでは足りないかと建てられました。その後も銭湯として残っています。工場地帯から興業地帯に変化して今に至っています。

